

明治・大正、昭和初期の波止場文化と宣伝媒体の研究

【代表者】

菅原真弓 大阪市立大学 文学研究科 准教授

【共同研究者】

天野景太 大阪市立大学 文学研究科 准教授

小池志保子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授

木川剛志 和歌山大学 観光学部 准教授

村田隆志 大阪国際大学 国際教養学部 准教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

平成 29 年度に採択された「明治・大正、昭和初期の波止場文化と宣伝チラシの研究」の継続研究である。港は、外国文化に触れる最前線であると同時に、外国人が居留する最前線でもある。相互の文化が交流し、いわゆる異国情緒溢れる空間が生まれる場所でもある。本研究は、船舶が海外との交流の主要な経路であった時代、明治・大正、昭和初期の波止場を中心として形成された大衆文化（本研究では波止場文化と呼ぶ）を研究し、当時の都市交流のダイナミズムを検証する。

この検証のために、本研究では多角的視点によって、波止場文化を研究する。一つに港町で発行された印刷物や港町を取り上げた旅のチラシや雑誌を収集し、ビジュアルイメージとしての分析および観光メディア論的な検討をおこなう。加えて、昨年度の研究会でのディスカッションや個々の分担研究の成果を踏まえ、今回の研究期間では大阪から紀伊半島にかけての港とそこで育まれた「波止場文化」の観光的検討を行う。比較の対象として基隆港（中華民国）を挙げる。一方、大阪の波止場文化の担い手として都市への移住民の受け入れ先となった長屋の研究をもこれに加える。長屋に関してはその建設当時の都市のダイナミズムに加えて、現代ではリノベーションの対象となっており、積層された歴史性がどのように現代に受け入れられているかも研究対象とする。現在、インバウンド旅行者のために民泊施設としてリノベーションされている事例も多い。当初の都市流入民の長屋が今、改めて国外からの旅行者の受け入れ場所となる、この物語についても研究する。

本研究では研究の取りまとめ及び印刷文化に関する検討、研究を菅原が、大阪の長屋建築とその推移現状を小池が担当、観光学・交通文化史の視点からは天野と和歌山大学の木川が分析する。木川は主に他国との比較分析を担当する。またこのような多角的な視点から、波止場文化を分析し、戦争で断絶された戦前の頃の国際化の潮流と、当時の流れが現代にどのように生きているかを検証する。

【研究成果（報告書より抜粋）】

共同研究メンバーでの研究会（打ち合せを含む）を三度実施（6月、10月、2月）し、それぞれの研究計画および進捗状況についての話し合いを持った。

- ① 小池：都市への移住民の受け入れ先であった大阪長屋は、現在、老朽化が課題となっている。その大阪長屋を通じた都市での宿泊の可能性を検討。こうした昨年度の研究を基に、さらに町家の「活用」のあり方を追求した。既存の町家・長屋を利用したゲストハウス調査を基に視野を広げ、今年度「オープンナガヤ大阪」に関する事例研究を行い、論文を発表した。
- ② 木川：昨年に続き、和歌山県において大阪商船がかつて牽引していた紀州航路の調査を行った。大阪と愛知を結ぶ紀州航路は、当初はこの二拠点の間の交通という目的のみであったが、時代が進むにつれ沿線の観光地の開発をともなったものとなった。これらの研究蓄積を近年の研究成果公開の方法としてしばしば実施している「ドーム映像」「ドラマ化」すべく準備を進めている。
- ③ 村田：「波止場文化」という問題意識のもとに、国内、及び国外の地域的特性を読み解こうとする本プロジェクトを展覧会として結実させる前段階として、先行事例を検討、国内において、博物館学の蓄積を確認した。昨年度の研究成果を基にコンテンツを充実させた。
- ④ 菅原：旧川口居留地の実地調査および文献調査を継続。また都市大阪の発展を象徴する第五回内国勸業博覧会（明治 36 年/1903）時のポスター、パンフレット等の調査を実施した。波止場から開かれた近代大阪の繁栄について考察を深めた。

研究業績

※助成期間中に本研究課題を基に発表した著書、学術論文、学会発表、報告書等

著書名/論文名/発表タイトル 等	発表年	出版社名/掲載雑誌名/学会名等
菅原真弓「『浪花百景』－作品に見られる歌川広重学習心に－」	2019	『人文研究』(大阪市立大学大学院文学研究科紀要)第70巻
菅原真弓「『浪花百景』～作品に見られる歌川広重学習を中心に～」	2018	美術史学会西支部例会、研究発表
小池志保子「所有者主導による町家活用型施設の改修・運営に関する研究 福寿舎・嶋屋喜兵衛商店の転用プロセスに着目して」	2018	『日本建築学会近畿支部研究報告集』

その他 ※特許、産学官連携、受賞、メディア取材など特筆すべき事項

菅原真弓：第 69 回芸術選奨文部科学大臣新人賞（評論等部門）『月岡芳年伝 幕末明治のはざまに』（中央公論美術出版、2018 年）

小池志保子：日本建築学会 2018 年日本建築学会著作賞『いきている長屋—大阪市大モデルの構築』（谷直樹,竹原義二,佐藤由美,綱本琴,小伊藤亜希子,小池志保子,榎田洋子,三浦研,藤田忍）